

【事例 H24-03-11】 高知県**高齢者こころのケアサポーター養成事業**

高知県では、65歳以上の高齢者の自殺者が、平成21年には全体の33%、22年には31%を占め、高齢者の自殺の原因・動機別（県警データ）では約7割が健康問題となっており、その内訳は、うつ病や身体の病気によるものが多い。そこで、高齢者に日常的に接しているケアマネジャーやホームヘルパー等を対象とし、うつ病や高齢者のメンタルヘルス等について正しい知識の修得及び傾聴の技法を学ぶ養成研修を行った。養成研修は、平成22年度から、毎年6時間×2日間の研修を2回実施。平成22年度は80名、平成23年度は49名が修了。

【実施主体】 高知県**【大綱の分類】** 早期対応の中心的役割を果たす人材を養成する取組**【事業予算】** 平成23年度 1,002千円**【利点】**

- ① こころのケアサポーターを養成したこと
- ② 研修終了後、本人の了解を得て、各地域の取り組みや連携のために活用できるようにした

【実施に至るまで】**【背景・必要性・理由の概要・等】**

高知県における自殺者数は平成10年以降200人を超えて推移し、平成16年には最も多い256人の方が自殺により亡くなった。平成22年は、197人と13年振りに200人を下回ったが、自殺死亡率（人口10万あたりの自殺者数）は依然として全国でも高い水準にある。そうした中、65歳以上の高齢者の自殺者が、平成21年には全体の33%、22年には31%を占め、高齢者の自殺の原因・動機別（県警データ）では約7割が健康問題となっており、その内訳は、うつ病や身体の病気によるものが多い。高齢者の場合、うつ病の症状が認知症と共通していることも多いため気づかれにくく、悪化させてしまうおそれもあるため、うつ病についての正しい知識と傾聴の技法を学んだ「こころのケアサポーター」を養成し、「こころのケアサポーター」が高齢者及び在宅介護者の相談に適切に対応することで、こころの健康づくりと、うつ病の早期発見につなげ、一層の自殺対策の推進を図ることを目的とする。

【計画を立てる上での工夫・等】

精神科医等うつ病に関する専門家等で構成した研修企画委員会を設置し、カリキュラム等研修内容について企画・立案を行った。

養成研修は、高齢者に日常的に接しているケアマネジャーやホームヘルパー等を対象とし、うつ病や高齢者のメンタルヘルス等について正しい知識の修得及び傾聴の技法を学ぶ内容とした。事業実施主体は高知県とする。ただし、研修企画委員会の設置、高齢者こころのケアサポーター養成研修事業等を高知県社会福祉協議会への委託により実施。

【具体的な内容・実施の過程】

平成 22 年度から、毎年 6 時間×2 日間の研修を 2 回実施。傾聴の技法については、演習形式で実施するため 1 回の定員を 50 名とし、複数名の産業カウンセラーを講師としている。

【成 果】

平成 22 年度は 80 名、平成 23 年度は 49 名が修了。

修了者には、修了証書と「こころのケアサポーター」ピンバッジを交付し、ピンバッジの装着により高齢者との話題のきっかけにさせていただくよう伝えている。

【補 足】

平成 23 年度から本人の了解を得た修了者について名簿を作成し、市町村や保健所等関係機関に配布し、各地域での取組や連携のために活用できるようにした。平成 22 年度、23 年度とも、年 2 回の開催を、それぞれ県中央部と県西部で実施した。

【課 題】

修了者が減少傾向にあり、平成 24 年度は、開催地の変更や対象者の拡大等工夫を要すると考えている。

【事業種別】 人材養成事業

【準備期間・人数】 不明

【予防段階】 1 次予防

【自治体規模】 758 千人・4337 億円

【自治体負担率】 2 分の 1

【事業対象】 高齢者に日常的に接しているケアマネジャーやホームヘルパー等

【支援対象】 高齢者

【実施主体・問合せ先】 高知県地域福祉部障害保健福祉課

TEL:088-823-9669

E-mail: 060301@ken.pref.kochi.lg.jp

URL: <http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/060301/>

【参考資料・文献】 平成 22 年国勢調査、県警データ

【作成日】